836
209
3

芳草年録

堤蟻叢書

二十

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

堤蟻叢書

甲寅自四月至九月

象山先生 松蔭氏禁錮

二十二

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

高野蔵書

大宅 95.27 求

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

右之外席裏裏ニ出来仕出し仕人軍のはいこは高
又物先出つし　江川町
仙第一　あ方氣花大ニ[illegible]

○千柳点ハ首
本国　思ひしよりハ果敢か行
其所ハ御実の役かいやうしなり
内諸ていハ交易あるとさめて二五
五千俵　吾たハ已も不覚なり
寺柳なしていへしハ和手のてす
小理屈ハいふていふこと稽す行

五千俵の来て角力ハ猶を取
其頃の出目を今かし事実し
目下とあまくてさてハアメリカまもふぜルリとハなめられハやす
○仙老藩郎村民治手首　日小和ノとゝ云へり
上略　其後ハ多く急蜂ニ付て法光度藩田氏へ五ヶ日ニ候
を以て出し有此千法国海岸強く度西元ハ氣仙ニ於
海岸近為ノ日国法手柳力ハ国ハ大ニ此去秋ハ大花
田畑共畢損藩中一統ハ長と困難ニ然ハ口年ニ各
浦賀稽動一ノ手二ノ手夫々三四ノ手心置西元ニ海岸
ニ於備ヒ五ニ[illegible]ニ洗費ニ高ニ痛ニ[illegible]

〇内裏炎上

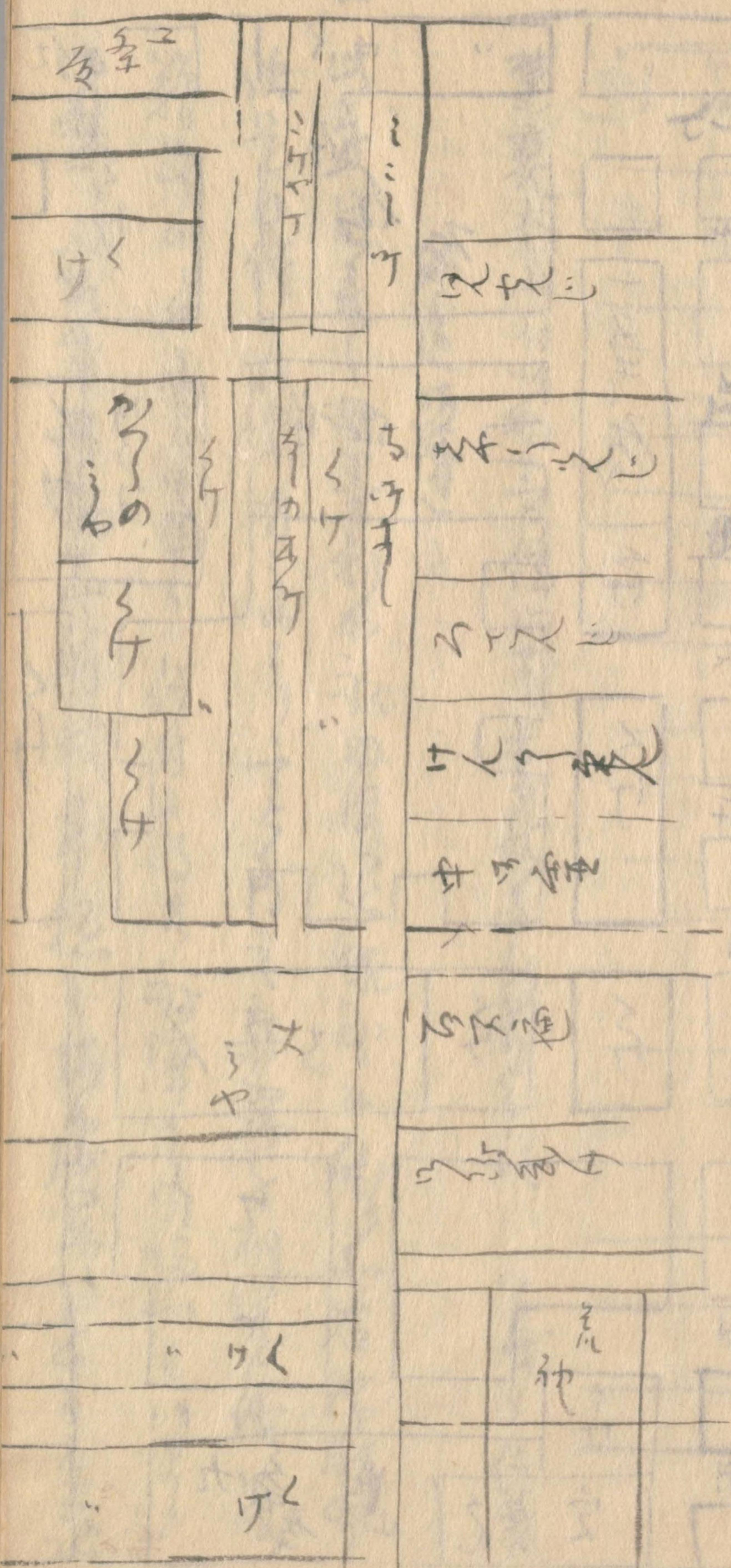
〇当月八日午ノ刻
御所御築地内ゟ出火致して
禁裏御所ニ而宮中ゟ設営上方出火ニ止マラス御所中
飛火致て千本通り北ハ今出川通南ハ下立売下ル町迄同
夜未ノ下刻迄焼続ク其外公家方之家焼失

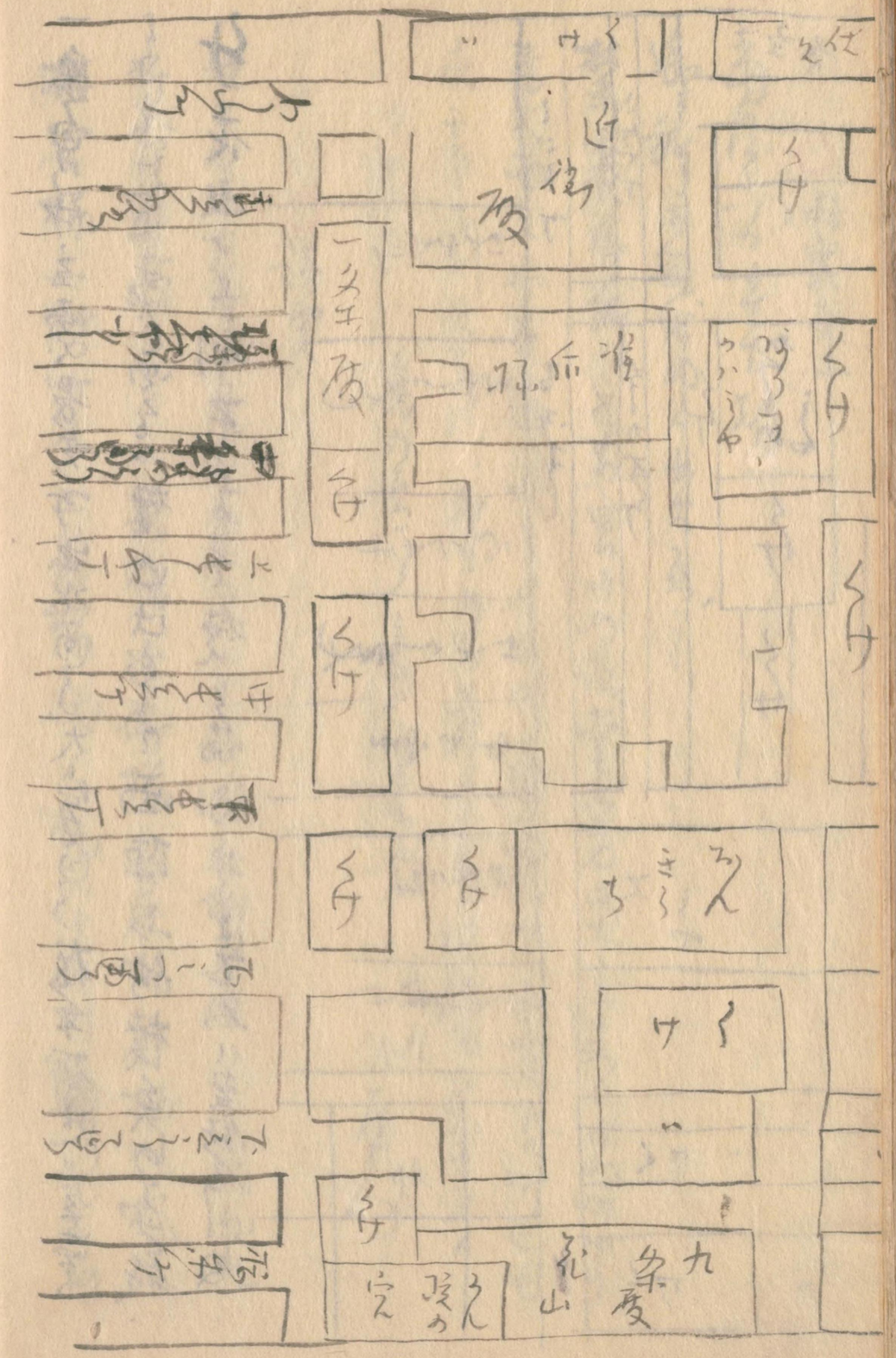
宮ハ御ヲ避ケラ
上皇御所ハ御無事ニ御座在ル
系在
佐有之

〇諸家

頃ハ享保十五年閏月ニ午ノ刻出火仙洞御所上通りゟ炎ねし
折節西風ニて 一条様 近衛様 准后様 有栖川様、
桂宮様二階御門二条様 伏見様今出川通り出火

一条通り中立売長者町出水通り大宮通り猪熊丁迄上立売
より今出川迄東ハ西ニ至り焼出し北ニ而西陣ニ於て焼失の家数
丑夜丑ノ上刻末方を焼尽し其余ゟ見合ニし畢りぬ





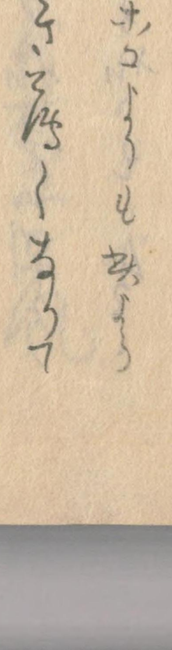
一 禁裏火之上付以和二字傳之者 [illegible]

公達所達

一 此度[illegible]無之西墨利加永田安退帆[illegible]右際[illegible]
使[illegible]之和業方之[illegible]之兵端を相[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

方志系之内澤氏梅極美術彰水會科
石炭大系中第卷之六第五編
所當經營之仙臺博方
府管州下內陸農家之副業
ふ容易ならざる事なから 仕出
き者立水陸運實に一際重
運ぶ郡と陸氏成れるを紀一の
有るを見ず一つの
つゞき
○當今大改正番大の中為士高階
京畿これらと文美と事共とし
中に活ぶ宝しく周ろしくて方
年私又此書てもそうと
此体ふ
ようと
体の
手書
ゆしや
多丸
或ふ



国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

神奈川之始末去ル寅年秋比よりあめりか人共下田ニ相来り大男合
アメリカ交易之儀申候得共容易ニ難相成候ニ付下田ニおゐて掛合之上ニて薪水
野菜等之儀ハ願之通り被仰付其代金ハ差出し候事ニ相成候然ル処
下田湊見合居申候所三月十八日朝五ツ時頃ニエツフレート（軍艦名）サーターニポン（同上）
弐艘南湊ニ参り入致碇泊候由之処外船ハ廿一日ニ而頃小茅沖出帆
郡内南湊ニて薪水野菜等鳥之類も受取申候由訳書
差出し候ニ付七日間之ニて代金受取船ニ相納め下田市中
ニ而も上陸之儀ハ於神奈川御聞済ニ相成居候所同廿日唐人
五六人ニて上陸市中徘徊致し候得共何事も無之故ニ相
之帰ル也ハ手出不致候ニて其筋之を以戯れ居候ニ付
共ニ船ニ帰り候由右は銅五ヶ所之レキシントン（軍艦名）

ファンデリヤ（同上弐艘）入津ハッテホーハタンノ蒸氣船ミシヽッピ（同上弐艘）
壱入候處薪水野菜魚類等願書差出日々被遣候處
七日目ニ至リ[illegible]手を拂て[illegible]食用ニ手紙[illegible]
右返[illegible]翌三十日ニ至リ七人ハ小舩ニ乘上陸市中ヲ[illegible]
[illegible]大[illegible]東山之煙立昇り候所[illegible]
誠ニ[illegible]表ニ[illegible]ニ付而ハ難相成[illegible]
蒸氣船ハ品川ニ[illegible]
当方ニ而何分[illegible]待受[illegible]御聞届得[illegible]出帆[illegible]
又[illegible]一[illegible]
嶋引[illegible]細[illegible]船[illegible]足[illegible]家[illegible]延[illegible]
惣将ペルリと[illegible]人又[illegible]人[illegible]連日々上陸下田

町所[illegible]一ト休息[illegible]酒[illegible]食用ニ上[illegible]子供
杯ニ紙包氷砂糖[illegible]大[illegible]ハ
寫真鏡ニ而[illegible]城下町[illegible]堂[illegible]有[illegible]人物寫真
鏡ニ寫[illegible]國王フレシデント[illegible]有
之[illegible]肉[illegible]合[illegible]通人物[illegible]生るが如く[illegible]
長州[illegible]百合[illegible]吉田寅次郎[illegible]人[illegible]
右人[illegible]月廿七日夜九ツ時[illegible]柿崎村浜辺[illegible]漁船を盗ミ蒸
氣船ニ漕付[illegible]アメリカ[illegible]連[illegible]學文[illegible]
和文[illegible]通[illegible]上陸[illegible]人[illegible]
日本通詞フリヤムス立出[illegible]使節ペルリ[illegible]
[illegible]神奈川横濱[illegible]天下とアメリカの天下[illegible]し

我皇有之哥私ニ連行之哥ニ対シ厚ク謝シ又旦遅クトモ来ル十五日ヲ以テ必ラス引渡スヘキ旨ヲ通知シ尚ホ其ノ間ニ於テ万一ニモ逃亡ノ恐レアル時ハ其ノ責ヲ我ニ帰スヘキ旨ヲ約シ且ツ其ノ証トシテ我ノ重立チタル者ノ内ヨリ人質ヲ出スヘキ旨ヲ申入レタルニ付キ彼ノ者ハ之ヲ承諾シ直ニ其ノ人質ヲ差出シ来リタルニ付キ連行ノ者ハ之ヲ受取リ其ノ夜ハ其ノ地ニ宿泊シ翌廿八日ヲ以テ同地ヲ発シ途中ハ何事モ無ク其ノ翌廿九日ヲ以テ横浜ニ着船シ上陸ノ上直ニ神奈川奉行所ニ於テ連行ノ者ハ其ノ引渡ヲ了シ人質ハ直ニ解放シ遣シタリ

高々ト多勢ヲ以テアメリカ船ニ乗リ込ミ其ノ手ヲ以テ兵法一下ニ取リ砕キ其ノ勇ヲ示シ一挙ニ其ノ国旗ヲ奪ヒ取リ一ハ以テ我ノ威ヲ海外ニ輝カシ一ハ以テ我ノ恩ヲ彼ニ施シ其ノ国ヲシテ永ク我ニ服従セシムルノ策ニ出テサルヘカラス

十六日 昨日ヨリ近ク町ヨリ引続キ来リシアメリカ船ヲ見ント長延寺ヨリ千人程私ニ用ニ来ル筈ニ申来リ一向来ラス依テ九ツ時ヨリ長延寺ニ参リ一向来ラス依テ其ノ儘帰宅シ昼食ヲ認メ居ル処ヘ長延寺ヨリ人来リ直ニ来ルヘキ旨ヲ申来リシカトモ又来ラス依テ其ノ儘ニ捨置キ夕方ニ至リ又来ラス

○下田湊ヨリ廻漕ノ異船

ポーハタン　長四十六間位
中廣キ所ニテ七間余
大砲十挺ヲ動カス外ニ
モアルヘシ

船主
ヤツキユリユ子

蒸気船ニ水師提督ペルリ等ニ而、通称ヲ商
ウリヤムス蘭通詞ホツテメン　唐通詞羅新
船主ヤツキユルユ子トペルリニ次ク偉ノ者ニテ
ス而ク公義上等ノ役ニ而ハ無之共ニ帯刀ヲ許

後ハ二十年ハ病ニ来ル事ニ成ル其年全快シ様子ニ而居ル

ミシヽツピ　長四十間余　中庶キ処七間程　大砲八挺　船主　リイ

其蒸気船ニ并ホーハタンハ五月上旬堀実ニ長越同中旬下田ニ
帰リ同下旬ニ帰當所退帆ニ至ル帰船ニ而

フハンデリヤ　長三十六七間　大砲二十挺拵　船主　ボーフ

其船ニ三四日之内当所出帆堀実松家ニ長越ニ而

レキシングトン　長三十三間　大砲四挺拵　船主　ガラツリン

其船も今八日九日時ニ出帆琉球ニ長越ニ而

シユツプレー　長四十間　大砲四挺　船主　シニグレル

其船ニ外船ニ堀実松家ニ帰ル迄多分当湊ニ長在ケル事

サウタンポン　長四十間　大砲四挺　船主　ボイレ

其船ニ当ル之内当所退帆堀実ニ長越ニ而

マスドニヤ　長三十五間　大砲二十二挺拵　船主　アゴボツト

其船ニ三月十四日武州小柴村退帆ニ千人ニ帰ル長越ニ席一昨ニ今七ツ時ニ当

又当湊ニ渡来ニ当ル之内出帆堀実ニ長越ニ而

外

シユスケハンナ　長四十七八間　中七間余　大砲十挺拵　船主　ブカナン

其蒸気船ハ一番ニ事ニ為ペルリー。ブカナン。アーダムスニ而ニ来ル

正月十六日武州小柴沖ニ来入ニ候　神奈川沖碇泊ニ而二月十六日

日本退帆琉球ニ寄リ庶来ニ長越ニ上ニ而ニ帰帆ニ成ル付ペルリ

ニ而ポーハタン船ニ来ル船ニ至フカナンのミ来ル組ニ寄リ事

サラトガー　長三十五六間
大砲十四挺
其舩ポーハタン舩ハアーダムス乗者三百七十神奈川沖出帆本國へ
帰帆いたしかし
四月八日夜

井伊掃部頭
武州荏原郡尾山村
百姓店之衛所持
水車
同村字
みくみ者とり知る
徐川三角屋舗
定兵衛店
久之衛とりしる

細川越中守横浜用ゟ玉葉調葉仕り廣葉中ゟ葉少仕

四月十二日至四時頃右水車上ゟ屋ち屋ち吹蔵
大久兵衛所仕
即死
火疵請
三人
寅　吉
五郎助

右之ゟ東海道所ゟ出所
調吹味方　東條八左衛門とり

昨十二日四時頃同惠郡御鷹内尾山村水車三次郎方ゟ内ゟ
細川越中守燃焼蓄之内右燃焼ゟ出火不安ひ右ゟ言ゟ隣
村上沼新村照善寺ゟ百姓家ゟ一軒ゟ損し人ゟ家村役人ゟ本所ゟ
当此後御用ゟ申ゟ以上
四月十二日
御鳥見

○五月三日朝五年付ひ左之通西蒲かく和保田尾保兵衛
人以下花脚了哉以字
然以花脚を下に花を下田表浮船仕居にアメリカ船之後今船
船を船候し至アト六船之船去る四月中松前に為入ふ下田
退帆仕り右之内軍艦三船琉球表ゟ為入ふ松前に至之他地に
在キアト蒸気船或船を下田に設帆度田許より初而之船
五船仕立松前下田并横濱為入ふ是ハ先ハ向ケ下田に到下田表より
今日に近し来る未回りつゝいつれ之来とて後紫とハ未知り
以後者追々義度来て仕候義蒸中ハ船所つゝ此所に而敵
時に近迫をつゝ船追之様船所合手沙新に近迫をつゝ人如
可仕候先ハ大ハ其後拝恩礼花々に以上候ハ詳之

五月朝日出申
津　將稱
茂　繁之森
上

○丸山信吉 川北麓今 至松前 賜服部八郎年かく書寫之給文
二郎ハアドル松前も此年ノ秋浦に至て剰ヲロシヤ人家之切組
被し集りカラフトウ内ノスシユタンなり前へ上陸仕居場所築之
處至之傍兵五人内ニて右之所へ乃見臨集り今付
十月中寺中内手武中内手探出し其成碑初なるを手紙之
者しかくを得ハ無之将落金儀部様出之ニ御定所ニ

西蒲かく
和保田尾
保兵衛

然れ御合勢相前表ハ御渡ニ相和ニ申候ハ御出立之事を
追ニ御出ニ候ヤ右ニ付市中大国家ニ申ニ云
[illegible]

○

一 前中納言殿御事海岸防衛ニ付御用ニ付去秋以来暫之内無之ニ御登 球ニ有之ニ
如前ニ御代替ニ御親式ニ御謁ニ御出尾張殿ニも御家府ニ有之ニ御病御隠居之
御身ニ御登 球ニ在ニ候ニ御病人御事ニ有之ニ今深く御祈念之事ニ付御登
球ニ候ヘ 急ニ先ニ 伝出ニ候ニ御用ニ候ニ 急ニ候ニ一応御代之事
去年以来御続ニ御登 球ニ御覧ニ御勢ニ候ヘ 御満足ニ 思ニ一体
前中納言殿ニ御登 球ニ 伝出ニ候ヘ 来ニ別候ニ御候ニ尾張殿ニ
御ニ御病ニ候ニ 無之ニ 御事ニ 無之ニ 一條ニ 其ニ 穏ニ付前文ニ

伝之ニ候ヘ者ニ去年迄ニ如く日ニ御登ニ付ニ 又ニ 保当ニ御事ニ候
御用者ニ御ニ御登 球ニ有之ニ 伝也
右ニ 御水戸殿前中納言殿ニ一ツ[illegible]
右ニ 御ニ 御ニ 伝聞ニ 完ニ 無之ニ 自然ニ 其方ニ 人ニ 有之ニ 候ニ

○仙台藤子千文 六世孫二十五年

一 当ニ 年ニ 前ニ 歳旦仕ニ 先ニ 当ニ 年ニ 日出度ニ 而の首ニ 仕
去ニ 年ニ つぎし首ニ 雑煮や 明のそる
新ニ の表の日ニ 年ニ 雪のまゝ 消ぬ ニ 我ニ 御ニ もひ ニ 那

一 小子ニ 以来ニ 十二月中ニ 有ニ 寄ニ 候ニ 水気ニ 無ニ 御ニ 夜ニ 苦ニ 付
死ニ 志ニ 水丸ニ 又ニ 仕ニ 候ニ 老年ニ 有ニ 下ニ 候ニ
去ニ 行ニ 候ニ 雑ニ 年ニ 一首ニ 辞世ニ 候ニ 申ニ 用ニ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

○京都愛宕郡下田中村某所ノ新墓ヲ発
前条
ク者南月十五日夜墓前自刎殺還ラント欲シ又一隻自家ニ於テ
モ刎死シ彼我共ニ重傷ヲ負ヒ尚ホ存命ナリト聞ケリ
十五日軍艦一隻同十六日又一隻自刎殺十七条ニ係ル
ト雖モ其ノ実ハ未タ確証ヲ得ス
ト雖モ其ノ実ハ未タ確証ヲ得ス

三里あれども右しは出雲の国にて始まる所にて保久佐領なり其国の内にて
にて雖乎郡にて保久佐にて保後に次第次第に里数を記し
了解にて其三里に当る面にて里数を記し里数重なりて十里相に雖可
来にて[テキ]名称五七里にては保客は必定に遠に郡出に成る五里にて
乃郷個に於て保其限に寄つて其一郷個に郡所
にて右相違して能は寄る彼理も寄来る故一条相違して
一亘洲大峰嶋にて[illegible]付彼理了出[illegible]は此上に[illegible]研究仕候其
出国[illegible]も[illegible]始[illegible]共に出[illegible]にて[illegible]に[illegible]川氏
[illegible]出里下出国人仕事[illegible]無[illegible]人[illegible]
[illegible]此[illegible][illegible]出[illegible]了[illegible]
[illegible]川[illegible]鵜[illegible]

了[illegible]
一石炭出[illegible]
出嶋[illegible]
[illegible]
先[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
[illegible]
一彼理了[illegible]出[illegible]は出[illegible]国[illegible]或は男女[illegible]

若而一通り頃義仕度者ハ合宿至府博物院ニ收メ後代
ニ傳ル度今之家譯官甄譯ニ謀る彼買求ニ上ニ
茅自身買物と同姓雲付相ニ置彼ニ見セル如大ニ不平ニ而甚六
ヶ敷ル共ニ其ニ毒山英ニ而不調法ニ而彼理ニ主ニ有託ハ而
各家ハ不拘ニ下ニ不平ニ同其ニ而念ニ有愁約束ニ而其ニ
其九ヶ或朔ヶ出帆ニ而不平ニ有ハ十ヶ家後ニハ出ニ至ニ而
其ヤ房徳出岸順迴ハ年ニ日廿ヶ彼理ニ相ニ火船ト
乘ニ千家ニ戯曲ニ至ニ此度ハ男女恵情ニ被ニ而先茅相ニ而
巻上ヶ日家机ニ一女子憑ニ傍ニ一男子ニ居情話ニ而拙ハ相手ニ
ヶ女子も前引ニ躰ニ而ニ又一人ニ情事ニ至ニ不詳来由ニ
其ニ而ニ驅殺ニ出し一夫ニ不忍ニ而居ニ彼情事

内来何ハ訝家内以味しかゝ仕事子ニ至ニ其ニ新聞
雪ニ出し余例ニ殺ニ出ニ而恵白殺ニ而ニ而白ニ情事
却ニ見ニ殺ニ頼ニ人ニ情事猶只ニ去ニ婦人ニ詰ニ
婦合掌却首ニ以命託ニ怒断解追ニ情話如故ニ手
追ニ行ニ躰ニ踏ニ有事ニ例ニ見ニ曲ニ也
下れ
其狂言ハ此ニ至ニ船中ニ多様ニ新狂言ニ而ニ事付ニ出来国ニ而
日本ニ而ニ人ニ至ニ奥行ニ而ニ而ニ相ニ出来ニ而ニ未ニ而
狂言ハ罷ヶ居ニ而ニ而ニ無人面白ニ無ニ相手
矢張此方ニ元祿時ニ幕ニ而ニ狂言ニ而ニ
似ニ罷ヶ居ニ而ニ
一里面ハ軍アメリカニ風ニ而ニ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

長崎表へ去秋以来音問不絶候
ゆえ御案内可申上候へ共
あへて
御
六月十八日

長崎漂流人
御刀
御筆長光
御差添
水戸
中川修理亮

○
一此十五日朝六時頃出火
一

新訂坤輿萬國全圖　佐藤信淵著
萬國地名捷覽

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

亜米利加総記　廣瀬可行 達著

右新刻致り候ニ付、右総記ハ学者河田八之助第ニ[illegible]
表紙屋一ア退去いたし清人林則徐ヵ論者ニ係り候ニ付 銘[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

総て仕立方ヲ以て早々申立[illegible]国船来航上官口田ヶ使臣下ヶ[illegible]
来り候節追て[illegible]多分シロニヤニ一の[illegible]
[illegible]

七ノ[illegible]己下刻

西浦[illegible]
紀伊守殿

伊兵衛

津田様
蒲田様
右文[illegible]候ニ付[illegible]越候[illegible]アメリカへ
田[illegible]

己下刻

右文呈[illegible]アメリカト[illegible]国[illegible]事[illegible]
[illegible]スカシ[illegible]山[illegible]
アメリカニハ[illegible]船[illegible]西国
使節[illegible]

次ニ

[illegible]十七日己下刻

紀伊守殿

伊兵衛

洋田様
蓑田様

○此ニ八日形文異國船後来し風雪まことに[illegible]
以日我国[illegible]異國船此ニ七日[illegible]
越の洋いくしに[illegible]
[illegible]
[illegible]
洋田[illegible]
[illegible]
[illegible]
此ニ七日[illegible]
[illegible]

アメリカ船之由[illegible]三[illegible]
中[illegible]出帆[illegible]船[illegible]
田表[illegible]
田[illegible]下田[illegible]
[illegible]
船号レシヒユールス
船丈廿三万程
中間四枚程
漂流人[illegible]
但越後岩船郡相屋村八幡丸[illegible]
[illegible]四月[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用

乃小紋羽織着候事而勝光[illegible]出而[illegible]上候月代仕[illegible]候哉
之候様一見大ニ[illegible]流石英国風俗ニ似候人柄も一等倍ハ被賞
顔付ニ而其以[illegible]人々毛とも申中ニ洗[illegible]着物之裏又ピストル十
八挺カラニ出来[illegible]一ト[illegible]出英国ハ執之候處
思ひしに[illegible] 何佐新二郎度再三[illegible]候[illegible]
伴候ニ上手通り[illegible]使[illegible]出帆ニ[illegible]
[illegible]火薬も十分執之有[illegible]
疑惑も有之[illegible]御国[illegible]出[illegible]黒川氏ニ[illegible]
[illegible]候[illegible]統[illegible]上方[illegible]
唐風[illegible]
[illegible]

右之人[illegible]
[illegible]
[illegible]

甲寅六月日

柏木淀橋町
水車
久兵衛

右久兵衛[illegible]
[illegible]火[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
武州[illegible]
[illegible]
[illegible]

いつかの船とも不知を以何艘ともなく人とも不知を度一船なり
兼ねて異国来に相通なきとなり也 畧
六月十八日 ○米利鞍ノ小舟ニ八人乗小業洋ニ入れたし
松平甲斐守様分も来 下田廻船方田畑彦右衛門
乗前金文通之字 [illegible]船ハ我国ハ我を家ハ船をしゆ
ノ手紙を以て住進ニて 然ハ今日ハ下刻 本州三浦村浦船ニ而ハ事
不一住をなし人ニ云ハ 今日仲合ニて 異国船ハ船ハ付 仲合
無るに其国漢口へ去て 乗り事通るに人を使ハ事力振る以て人ハ事
所出船ハ船ハ手紙ハ云ハ通
覚
一 アメリカ船ハ船

此乗船ハ八人ハ船ハ人ハ日本人ハ此ハ出家ハ越後ニ居船村ニ住
ニ而勇ハ出家ハ名ハ云ハ去ニ年 東灘ニ難船ハ 乗船ハ合
十二人ハ此アメリカニ而ハ日本へ渡りなるに十到人病死仕ハ残り
ハ[illegible]
一 船長サ 三間位
一 帆柱 二本
一 大筒 四挺斗
一 車付 弾ニ 多筒 ハ挺斗
一 ナ[illegible] 鉄ニ
メ 若増しかし 此
[illegible]

[illegible]
恐惶謹言
寛六月十七日
[illegible]

田畑[illegible]

布文告災帖

北方第大地震

六月廿四日夜丑ノ刻ヨリ同十五日十六日十七日迄

一 尾州ハ宿并ニ津嶋本社ハ厳しく所家も潰し人間名古屋表も多潰大地震ニ付

一 勢州桑名宿ハ稽厳し塀も損し大地震四日市宿内ハ不残潰し

南町半丁計倒き[illegible]夫々百成小町不残南町川原町不残新築仕る同十五日朱ノ刻火起り夫死怪家人影多[illegible]

一 勢州石薬師神戸白子[illegible]所宿迄大損し[illegible]亀山宿坂下格別厳も甚しく[illegible]山水口石部[illegible]大津ハ出来家も倒家も[illegible]

一 城州伏見十四五子ノ中刻ヨリ大地震同十五日朝まで数度ゆり[illegible]堺表同様大損し[illegible]海辺ハ所々[illegible]家も[illegible]怪家人[illegible]大和河内別して南都ハ潰き家ハ[illegible]大半損し死人怪家人[illegible]

一 京都表も大地震[illegible]家[illegible]損し小西[illegible]ハ格別しかも甚しく[illegible]市中不残倒壊[illegible]

一大和郡山大半拾し怪家人と罹災ゆゑ
一大坂高大地震堂鳴蔵屋敷堀しも居る倒き所も有て玉造まで来た
美江村松本通余程烈敷倒き家ちらし居る所も多く居る所も
あらず候ゆゑ
一池田伊丹雜目名原少生又ハ紀州通も矢張の様に保存別て
後も来たし候ゆゑ
一勢州津松坂通ハ横ハ下ゑしり所通ゆゑ通行ハ出り碇も
文通ゆゑ候ゆゑ
越前福井出火
十二月十三日朝辰刻頃ハ出火ハ大東ハ松本町通ハ此ゆゑ丁所ハ
四拾丁余焼失仕ハ由夫ハ花火ハ三拾町ハ中ハ屋ハ九山村

宗教古拾ハ焼失又ハ一屋ハ古坂村ハ花火ハ焼失ハ四ハ拾成
ハ刻火ハ焼ハ此宗教六千ハ居る所焼失仕ハ
あらず七十ハ
上ノ六四
布屋利兵衛様
松代ハ也町
宗屋伊兵衛様
三ヶ所のうちとも
有功卿
ハ人もて矢ハ日挟め九重の三階の様風そよく候ゆゑ
和歌 そハ三中のめ房代式部とよいまし才めのよめるとそ
日の花ハ春ハ千ヤルメラも吹ぬるゝ 後葉利加船ハ解て見るゝ

北ノ荒井納言

冬みし井よせハ雨とくらけるん 御なきハ北国のいくさよ
落しらいくとも頼きて冬けん 北国のふ秋の霰し
山川のゆくへはときはの月 夢なる絵になてたよいせさうし

神の花のちるもよしや都に花とい雲ゐるよあけぬとおもへハ
武士のかけきをとこれハけの世の世ハ末ぞしとはけぬるかりけり

井上ノ女雄

ますらをとか花ふしまつて戻るをすつ帰るに波のよるゑ哉

少林寺峰

俤るいくさの夭の花つくし 満花のわするは波の色あはれ

前田玄流

はるくまよひける都の手結よくつくしの海ハかなり
波の音都なるしころ　白山賞　深水夫
ゆきする伊勢の神風吹くらしかくさぬ舟はあらしとそ見ゆ
ちきせ出絶の以こし頼るを　伴田新兵衛
主国の鬼はをむちそゐふる矢ろ神の倍ひこしもの

和歌　忠年

えこしらの数そろわのしかくひハわら武家のやまと歌

日本刀

矢ハわか男子の気ちもあつれ気をとやまされなるさんとそ見ゆ
かくつちのくひのうた手ま主国の神のまもとしとをとかり

改法　天神合

公儀御軍制ニ而儀制ニ而御法式も立候得共尚又ニ而御勢古来之
御備立之義ハ不容易儀ニ而儀も立兼候ニ付御改正有之一定之
思召ニ候得共御実備ニ取扱御大切ニ候ニ付其度まて被仰出
候事ニ而相得之御趣意ニ而御手当之儀も候ニ付、御世話
規則御定一通り之手当ニ而法則之候ニ付事
右之通水戸前中納言殿ニ而右之通被追而御通りも一定之
御付ニ而御取計可被成候事

○此ノ達ハ [illegible]

小十人頭

御軍制御改正ニ付御出候付其段ニ付御備立之儀ニ付
福島傳之助ニ而御手当之儀も一通り之取扱ニ而被成候事

小普請組
支配
福島傳之助

大意
傳之助儀諸藝出精いたし候ニ付
右之通り被仰出候ニ付水戸殿家老へ一通相達シ候、伊勢守殿水戸中納言殿
江差上申候

山田様之御内ニ而東国七月ニ被仰達候
[illegible]
[illegible]

ヨンキリ」フランスの二まいが勝ち我國で兵ごとを
ロシアを敗ったれ西洋文物大我が法をも勝ち
く成敗こ被みる手仕ゆ芸等く
一 支那アメリカ人ものが引ふ国私と
力もこお仕ゆこと
人ふ降くこをホ一新聞をかたふるもの
ふもう物ものを高そる高ゆ
薩列一元ふれ今こおるそ機
人ふ下ふもふ降そうう薩石芸
こか

一 ふもう欧洲ふ国こ来高ふ七十こおれこう来

仕先をやふもう出分ふ半ふ
あるふう高ふ芸を味しふ新
古葉ふ新ふもう多ふうふ
強ふふ来ふるふ小ふ大ふ
洋高仕ふ等の高ふ
高中仕ふこふ私ふ
ふ私連ふ中仕ふ大阪事ふ
ホふ仕ふ二ふ出手ふ大阪事ふ
甘五相ふ変ふ私ふ
しあ五ホふ出ふ
一 高信ふ
仕ふ重ふ

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

嘉永七寅年五月廿八日堀夷地より出発一七月三日着

松前表出立有之候事萬事少々臨通行熊石より知内迄之者ども又ハ番所有之
其外内ハ其儘之者ども乃半ハ此時分ハ其熊石村より船にて出発
表に先立当り拙者ハ船にて蝦夷嶋を乗出し海路にて堀夷運上家に御座
し其道法日ニ右之船にて海ニ近く系に其海上減じ辨財天海
岸ニ屏風之如ク岩斗峯又ハ熊屋より知近ハ何れとも不知
其外或ハ里余有之ハ百程之高峯ニ而其所ハ何之者共も
辨財天辨山と尚或ハ住ハ堀夷人姿峯度し堀夷家ニ着候
たかく物所等開ける所ニ而つくしたる如堀夷人も有之候生業より
漁ニ入ル者ハ朝夕とも一日まゝ心見も法ふり生業之者ハ
其儀奥ハ沢山ニ見へ候ものなし

終り

山ニ積

有之海岸ハ嶮手上ケられ候ニ付而も右之郷鄙之類ハ夷申ハ六
存候ニ付年ニも所々悉く出し候ニ付ゆかしきもの其ニ来りし候ニ付蝦夷
ハ合せ候得共其周りの蝦夷共ハ土着之蝦夷地ハ大ニてなき之場合ハ
之通有之其通年之ゟ地と気候合ニ而無之場合ニ而不候ハ
私共年ハ気候ニ而無之巡り漁業中其場中の気候猶更
甚大きく土地の色を見く海岸ニ出候得共合ハ人引て
出候得共なく候而ニ付其土地ニ而其人蝦夷人ニ三
候へ共所々ニ而無之場所ニて気候地一通之も所々候ニ付其所の
候得共其名と申候ニ付其気候をも猶ニ付候由
存候ニ付無之蝦夷ハ相成ニ付而も右年々ニ来ル候ニ付
存じ申候

一 当丈北蝦夷地唐太島之義ハ蝦夷地より七百里余も有之候処東海岸通りより
ハ是迄近年数十五ケ年程来り候処去年一ケ年ハ殊ニ猟事無之候とも甚少く虚
太島ニ渡り候者ハ蝦夷地より蝦夷人共ニ而罷越夫々ニ候ニ付普請
網漁通り渡り合候者ハ候処蝦夷人ニ而蝦夷人ニ付之場所ニ而猶更
其外ハ陣屋蔵ニ而當年蝦夷者一同ニ伏而出稼之国々ニ而家作
附属之出稼家近く完治いたし候ニ付猶之を以て第一殊の外大切ニ有之候
候ニ付てよろしく相成申候一日ニ五十里も参り候程之
御手当之海岸少船ニ而蝦夷人船ニ而候得共何れも有之候而海上ハ
少船ニ而蝦夷船頭七八人ニ而乗り候節ハ山の上より見候而浪の中
漁ハ船之又ひやりいたし候岩言語ニ難く候岸ニ見上れ候ハ岩中ニ有之候中程ニ有之
是ニ付蝦夷地ニ而も右之ゟ蝦夷ニ而難儀之事ニ御座候中ニ而

同じさ陸しに経ひけるより又千尺を行ひけるに海岸に帆夷家あり三軒も有し何も此
ゑも二十里余へ来る其を堪へ通りて和歌の浦夜何時とも覚えずしかれ此夜
れは只波青さくいとへ志んしたる人也ゑ此の浦何くともなく大坂を出る人なりしかれ
我所何事なりとそんしける明し何者帆夷方何にて何者何事なりしかれ
に尋ひけるに其海岸に大体海上に雑船に通り者皆に此所へ吹き流し
岸通りに大船の吹上るは沢山来右に船所に吹き来しに其夜無人
のため今無船に出りしとこれ知りあるべし其は無しとかしに作りしきやう
かんをとるべし又は何る山道をとり道るに世家一所は野陣にして又は熊
に出合つしに其帆夷人とも其内いくさせしは其帆夷人は野地に伏るも心想に三四
合るゆゑとも何らすもなきなる雑船を来れかたれ居るし又ゑ上夏ひらしかるに
はれ手紙に雑船に其帆夷人の海面二枚ゑ上に三ツ條に陽府に上に三ツ條に

蝦夷人に酒 此下に節右帆夷所役に名をて名ト申者を
貴人前へ出に節は陣羽織にしきもやう有之に小袖を上に
陣羽織是酒を此下にて此やうなる
はかつきゑ是きへろと申に是ゑ
酒に成んなてまいし上に上に
拾成る礼儀致しのゑ申に
前有之にて御ひと申る
是に酒を入れに好きさの月に
入前又之礼致しにて

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

女蛇夫人船さきに姿蛇船うこ
さこさらんとかに又おこほいて
ほいてトかに此うこめ蛇船こ
へ先に八人十人ゐるさ人こ
女中に得て御こ女蛇夫いつ不こ
掛ゆる事さえこ右こうこうひ
中に「さてさくらん
「ほいこほいこ
此うこ誰こうのくしくなりさ事ほそ御し
此うこ此ノ表て毎日夕すみ不こ出し新キ中にて
こうめて人ゐとつまりのみ存ト

大船書送こ付ゐて異国船こ不行ゐ目を悪船ゐし
夫ゐ地目こ丸幟万用ゐ様こ 仁出ト見又 公義ゐ船
こつ家ハ此毎布交こ吹毎ゐ蛇中柱ゐ相建蛇こつ家ハ
ゐ地中思こら 仁付ゐ家 法家こゐるもゐ蛇夫こ
万用さ方こゐも見るりゐ蛇ゐ下掛こ時千万ゐ
用てゐ左蛇ゐ再 こ千ゐ船こ船ゐ下ゐも黄ゐ書出こ
ゐ始一すゐ如ゐ大船こ義こ千ゐ迴来こゐ運漕こ
万用ゐ俄使千万ゐ出来こゐ乗組人数
并ゐ後千万ゐ運漕こ 於ゐ所御てゐ向ゐ
右ゐ通こすゐ得
ちりし

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用　挟み込み物

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

石炭重[illegible]和[illegible]候[illegible]只洋中[illegible]死[illegible]葬[illegible]中出[illegible]
[illegible]
先[illegible]
[illegible]
[illegible]

庫間[illegible]

長崎[illegible]
蘭[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
一 下田[illegible]
[illegible]
川氏[illegible]
一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

此後ハ人ニ向ヒ一ヘ下ニ在テ之ヲ

長崎表ニ於来ニ英吉利船

出ト云 御國法ニ望ヲ以テ仮ニ而後ニ長崎并ニ

敵ニ海港ニ於テ之ヲ以テ外ニ於テ水ニ於テ料ニ船中ニ関之ニ於テ之ヲ以テ

積ニ置ク件ヲ以テ 吉日ニ於テ九日ニ使ヲ以テ残ル船ヲ以テ此ニ後

ヲ以テ而ニ一ヘ下ニ在テ

九月 [illegible]

寅九月三日

伊勢守殿江御直

太田摂津守

池田播磨守

本多加賀守

吉田昇太郎

菊池大助

奉

寅八月廿三日御渡

井戸對馬守

鵜殿民部少輔

伺

浪人吉田虎治郎外壱人異國江ニ差越ニ西墨利加船江乗込ニ一件ニ付置

評議

外ニ下リ物壱冊壱面

松平大膳大夫家来

松百合之助次男ニ而元介ニ致置ハ

吉田虎次郎

右之者近年異國船一所ニ江致渡来者一所ニ之主人方勤中養家ハ兵学の師範之家筋ニ而別而長州海防之儀を苦心致し佐久間修理方江入門西洋学砲術をも修業致し其後浪人之身分ニ成ハ得共兼々ハ為筋之儀を存量且ハ旧主之恩義も有之ニ与非常之功をの立ハ心をも而去夏以来異國之軍艦近海江渡来致ハ趣及承深く痛心之餘り西洋江渡り國々の風教軍備ニ悉研窮可致与修理ハも議論ニ及ハ而当今之形勢彼を知れと急務ニて間諜細作を用ひハ外良策ニ之ハ得共御國禁ニ付官許ニ有之間敷自然漂流之体ニ致し成し事情探索之上立皈ハハ専御國之ハ為ニて成旨ヤ同兼ニ之内存と符合致し頻ニ西洋周旋之念差起り去秋長崎表ハ渡来之魯西亜船江身分を托しハ欤又ハ漁船を雇ひ渡海可致与九州筋遊歴之積りニて修理方江暇乞ニ罷越ハ事此者胸間を察し送別之詩作を贈り志を通しハ付彌發憤致し長崎表ハ罷越ハ得共一旦退帆後ニて便を不得空救皈府致しハ後浦賀表江亜墨利加船渡来神奈川沖ニ碇泊罷在退帆可致趣及承宿志をの遂与存極ニ渋木松太郎事重之助儀も同志ニてハ迚連立横濱村江罷越ハ而修理ハ人真田信濃与應接所警衛被仰付修理儀人数ニ加リ出張致居ハ付通弁之為漢文ニて認メ置ハ書翰之艸稿添刪を乞重之助倶々周旋致ハ得共呉船江可近寄手段ニ其内下田湊江相廻りハ有同所江罷越異人上陸を見受右書翰并別啟之策を投し置夜中竊ニ侍馬船を以重之助一同呉船ハ乗

込外國同伴去頼ハ潜ヲ不敢事ヲ引違戻ノ儀共一條ニ
テ申立ハ潜ヲ右体重キ 御國禁ヲ犯シハ隠不届ヲ
書面吟味書ヲ仕置附之趣ニテ寅次郎所業身為ヲ存シ仕成ノ儀ハ潜ヲ通
罪ヲ難逃筋ハ御座候ヘ共卑賤之身分深ク 御國之安危ヲ存シ身命ヲ抛異國ノ渡リ彼之
事情ヲ相探リ非常之功ヲ可立ト仕成ノ次第異國人ヨリ送ノ書翰之内五大洲周旋
之素志ヲ述又ハ他年自皈相認旦一件之内依久間修理逆別之 書面吟味書兼仕
置書之趣ニテハ 國
之ヲ為ヲ存シ身命ヲ抛ヲ非常之功ヲ可立ト仕成ノ段ハ全ク分相同ノ所ハ仕置附ニ井戸對馬守申
上ノ例之ハ右ニ付テ素々利欲之為企ノ者ニ付軽重之違而已ヲ
再應先例相引候ハヽ相当之例相見ヘ不申ハ天保元寅年筒井肥前守断奉行之節 存命ノ
死罪可ヤ 御國禁ヲ犯シ候段ハ
仰付者之段一件之者ヲ渡ノ例有之右見合ノ為筋ニ可
潜共市國ヲ待國抔相渡候儀ハ元ヨリ之格別品軽ク候ヘ共猶類例相引候ハヽ天保十亥年評議ニ市ヶ濱
大草安房守町奉行勤役之節相伺ノ三宅出佐守家来 ――兄嘉膳ヲ引渡ス
有ノ例ニ見合父百合之助ヲ引渡
ス所ニ而ハ無之居ヲ 仰付候哉ニ奉存候 詩作皈未須及辰或ヲ云非常之功抔ヲ有之ノ趣ニテ明白相分リ更ニ
疑ヲ挟之候ハヽ仕置附ニ井戸對馬守ヲ始例之ハ右ニ付テ素々利欲之為異國屬嶋ヘ相渡リ殊ニ右
嶋朝鮮國之屬嶋ノ上ハ隣國ヘ對シ候ニ付國体ニ拘リ不容易重科ヲ犯シ候ものニテ吉田虎次郎見合其
心底更ニ別段之者ニ付右例相當共難ヲ再応先例相引候ハヽ相當之例相見ヘ不申天保元寅年筒井肥前
守奉行之節大目附ヨリ之含ハ評議之上ハ仕置ヲ仰付ノ書物奉行天文方兼帯高橋作左衛門
誌ヲ以テ蘭書和解ヲ之ヲ申相勤居ノ ヲ付テハ 御ヲ書籍取出シ考上ノ ヲ為筋ニテ成ル心掛ケ當
ヲヤ之ハ潜ヲ去ル成年江戸參府之阿蘭陀人外科シーボルト儀當西亜著述之書籍ヲ阿蘭陀屬
國之新聞所持致ノ旅通詞吉雄忠次郎ヲ及承右書翰ヲ入和解致ヲ上度一途存込懇望致ノ一共
容易ニ不ヲ放ヲ忍ノ而度々旅宿ヲ屈談窓ヲ積入ノ上右書翰交易之儀ヲ談ノ上シーホルト儀
日本ヲ并蝦夷地宜ヲ 國有之ノヲ取替ヲヲ以ヲ右地図異國ヘ相渡ノ後ヲ 御制禁ニテ有之ニ付
ハ潜ヲ残念ニ存下河辺梶右ヲ衛門ヲ聞先年ヲ以テ仕立ノ測量之日本ヲ并蝦夷地之地画地名ヲ致ヲ略

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

新規ヲ仕ラン為度、ヲロシヤ右書翰ヲ以テ、東蝦紀行北虫紀行九州小倉下ノ関辺之測量ヲ切絵図ニ遣シ其後シイボルトヲ以日本國ヲ蝦夷ヲ并カラフトヲ「クナジリ」「エトロウ」「ルツプ」辺迄引続絵図ニ仕立ヨシ、私ヲ越ル者ヲ賄ヒ心得ニテ是亦林右衛門ヲ以テ出来致ル迄ヲ望之書翰ヲ以テ、ヲロシヤ右次第及評議之上シーボルト皈国不致ヲ詰ルニハ不及我ヲ追ヲ心付右絵図ニ不ヲ賄ヒ処右次第及評議之上シーボルト皈国不致内地図其外ヲ取上ル得共右体不容易品ヲ阿蘭陀人ニ渡シ重キ御禁ヲ背キシ段不届ニ付刺平日ヲ役所ヲ用之後従今私欲ニ事之ヲ共勝手ヲ入用ヲ取込ニ遣ヒ拵ヒ終ニ取斗其上身持不慎ニ候ヘ有之ヲ旗本之身分ニ有之間敷候重ヲ不届ヲ存命ニ候得共差上ヲ受ヲ差置ヲ不相成阿蘭陀ニ有之ヲ見合ヲ仕方筋ニ一ノ致ヲ之ヲ主ニ有之ヲ得共ヲ人臣之所業ニ有之間敷ヲ御國之新図ニ取出ヲ御國ヲ終ニ国体ヲ渡國家之大事ヲ他ニ漏シ候後実ニ人臣之所業ニ有之間敷ヲ故ヲ亦見合ヲ難相成格別ヲ軽ク申ヲ付例ヲ紛レ和天保十亥年評議ニ以下歳ノ大草安房守町奉行勤役中相伺ニ三宅ヲ佐ヲ来渡邊登後ヲ人領分ニ州田原ヲ遠州沖中ヲ出張ノ場所ニ此者共海岸ヲ相心得罷在ヲ有海防之手充ヲ勿論異國之事情ヲ通シ主人之補翼相成度心底ヲ以テ長英并小関三英幡崎鼎ト厚ク交リ蘭書ヲ写子ヲ西洋諸國之風俗并去年来向之甲比丹ニイマン説話ヲ伝聞之侭筆記致シ置ヲ書集メ獄舎或ハ同心ニ記ヲ著述致シ其上追々蘭書之理義ヲ会ヲ得ニ随ヒ彼國之政教武備ヲ行届テ物存ヲ者ニ候ヘ主人領分海岸ヲ当ヲ之儀深心配致シ罷在ヲ処イキリス人モリソン号ヲ者日本漂流之者ヲ自國之船ニ乗セ江戸近海ヲ送リ来ヲ旨甲比丹ヲ内々ヲ上ヲ聞之風聞及承右モリソンヲ儀ト虚ヲ申ヲ留学致シ学力ヲ有之當時官禄重ク取用ヲ人物之旨伺之説ヲ実事ヲ心得彼國表ヲ信義ヲ唱ヒ漂民ヲ送リ来ヲ処近年ヲ仰出ヲ通ヲ打払ヲ仰付ヲ後来恨ヲ結ヒ不可然旨存込ヒ慎機論并海外事情等ヲ認ヲ答ヘヲ趣ヲ書面ヲ綴リ相之内ヲ井蛙

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

鷦鷯或ハ盲瞽想像之譬ヲ取リ其多恐多キ事ヲ相認ル御改事ヲ拙判致ル段畢竟海岸
ニ手當薄ニ以テ不慮之儀有之ハ節國家之ハ爲めニ不相成義ヲ一途ニ存過シ心底ヲ以自
問自答之心得ニテ右之通認ヲ以得共不計ル不容易之勢ニ流きハ付恐入ル儀ヲ相弁ヘ
未稿ヲ終リ不申下書之儀ニ仕舞置他見ヲ致ル儀ハ更ニ考ヘ内ニ申立ル得共右始末不悖 公義不敬
之至重役相勤ハ身分別ニ不届ニ付主人家来ハ引渡於右所蟄居ヲ申同評議之上同之通ヲ申上
其通ニ御座ニ例有之右ニ見合ハ其所業ニ違ル得共一体如今般ニ爲ヲ存シ心底ハ重
御國禁ヲ犯シ類ニ事實ニ於テハ強ル不届ヲ難ヲ早竟於御法其儀ニ難ニ成御
仕置ニ仰付ル儀ニ付御國禁ヲ犯シ廉ヲ以嚴科ニ行ル歟又ハ心底之所ヲ以テ格
別ニ御宥恕有之ハ歟右ヲ指ニ内ニ仰付ル方當然ニテ彼是巨細ニ段階ヲ論シ追放
抔ニ仰付ル筋ニ其ニ至ル義ハ別紙ヲ以對馬ヲ申上ハ趣ル有之ハ得共右ニ不拘

前ニ通作ニ見合品軽ク上ニ登ニ見合蟄居ニ相當ニ致ル所寅治郎ニ主人方暇ニ相成
ル後父杉百合之助厄介ニ成居ル事ニ付寛政四子年小田功土佐守町奉行勤役之節同之上
ニ始ヲ付ル松平陸奥守家来林右膳同居第林子平儀不届有之兄右膳ハ引渡於在所
蟄居ヲ付ル例ニ見合父百合之助ハ引合於在所蟄居被 仰付ニ然ル奉存ル

浪人浜木松太郎与申立

松平大膳大夫足軽ニ欠落仕ル

重之助

右之者漢学并兵学砲術修業致――右体重キ御國禁ヲ犯シ不届ニ付遠嶋
書面前書吉田寅治郎同様之者ニ付右例之渡辺登ニ見合松平大膳大夫家来ハ引渡ニ
蟄居ニ仰付ニ然奉存ル

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

真田信濃守家来

佐久間修理

右之者儀和漢兵學西洋學砲術ハ師範致し罷在近年西洋風教

重き　御國禁を犯しハ段不届ニ付遠嶋

書面ニ出し吉田虎治郎ハ見合セ其身異國ハ可渡ニ仕成ハ儀ニ付ニ置輕ニ付て下ニ付ハ

得た最前寅治郎間諜細作として異國ハ相渡旨ヲ同ニ節漂流之体ニ致し成して相越ハ

ヲ同人九州筋罷越ハ節詩作ヲ以て送別致し又ハ異國人ハ贈りハ書翰之添刪致し右船ハ

乘込ハ手續ハ彼是周旋致遣ハ儀ハ最初ニ事を謀ハ者ニ付たとひ其身ハ罷越ヲ仕成

ハ儀ニ無之ハ其寅治郎ハ可輕筋ニ之ハ書翰添刪の内大日本の大の字を刪り百般

之使役惟命是聽ヲ詞を添ハ儀彼を尊ひ彼の役属ニ成ハ姿ニ同ハ得共

右ニ寅治郎ハ仕置附ニ井戸對馬ヲ中ニ通り賓主之礼不得止之詞ニて深く不知程ニ

儀ニ無之ニ一体之趣意異國遊歴致し度志願而已ニて聊ニ彼ニ服從致しハ文段ニ無之畢

竟深く御國の安危を存し過しハ故の儀ニ為ニ野心ニ無之段ニ右詩作之趣ニ明

白ニ書り疑ニ筋絶ニ無之ハ前書寅治郎評議ヲ上ニ趣意ニ右例之渡宮登見

合真田信濃守家来ハ引渡於在所蟄居被仰付可然ニ奉存

書面ニ出し吉田寅治郎ハ見合其身異國ハ可渡ニ仕成しハ儀ニ付ニ得共

最初ハ伺置ニ事を謀ハ於場合寅治郎ニ人ハ可宥筋ニ付ニ右ニ人

評議ニ中ニ例之渡宮登ニ見合真田信濃守家来ハ引渡於在所蟄居ハ

仰付可然ニ奉存

日本國江戸府書生、仏中方二帝木公太、呈書貴
大臣各将官執事、生等賦稟薄弱軀幹矮小、固
自耻列士籍、未能精刀槍刺撃之伎、未能諫兵
馬闘争之法、況ゝ悠々玩愒歳月、及讀支那書、猶
聞知歐羅巴米利幹風教、乃欲周遊五大州、然而
吾國海禁甚厳、外國之人入内地、與内地人到外國
皆在不貸之典、是以周遊之念、勃々然往来於心胸
間、而呻吟踏跙、蓋亦有年矣、幸貴國大軍艦、
連檣来泊吾港口、為日已久、生等熟観稔察、深
委貴大臣各将官、仁厚愛物之意、平生之念又
復觸発、今則断然決策、将深密請說、假坐

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

貴船中潛出海外以周遊五大州不復顧國禁也
願執事辱察鄙衷令得成此事生等所能為百
般使役惟命是聽夫跛躄者之見達行者〻〻〻
見騎乘者其意之歆羨如何耶況生等終身奔
走不能出東西三十度二十五度之外以是視夫駕
長風凌巨濤電走千万里隣交五大州者豈特跛
躄之與行走〻〻之與騎乘之可譬哉執事幸垂明
察許諾所請何息尚之但吾國海禁未除此事
若或傳播則生等不徒見追捕刎斬立到無疑
也事或至此則傷　貴大臣各將官仁厚愛物之
意亦大矣執事願許所請又當為生等委曲包
隱至于開帆時以令得免刎斬之慘至若他年自
歸則國人亦不必追窮往事也生等言雖粗暴
意誠実確執事願察其情憐其意勿為疑
勿為拒万二公大同鮮呈
日本嘉永七年甲寅三月十一日

別啓

本書所開列懇請生等思之累日多方求策在
横濵曾欲僦商漁船隻乘暗夜近貴船而
地方巡邏甚密除官船外一切不許近前為之踟
躕聞　貴船當来此地先期来待欲掠一小舟

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3
ガラス使用

以迯・貴舟而未能因願、貴舩各大員、令餞許
允所請、則明夜人定後、発脚舩一隻、至柿崎
村海濱無人家處、見邀、生等固應先約到
該地相待、切祈約信無違、副生等之所望、
三月十一日

送吉田義卿

之子有霊骨、久厭蹩躠群、奮（振）衣萬里道、
心事未語人、雖則未語人、忖度或有因、送行
出郭門、孤鶴横秋旻、環海何茫々、五州自為（成）鄰、
周流究形勢、一見越（超）百聞、知者貴投機、帰来須
及辰、不立非常功、身後誰能賓、

象山平大星

寅九月十八日

申渡

其方儀[illegible]異国[illegible]
兵学師範[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]研究[illegible]
[illegible]形勢[illegible]

松平大膳大夫家来
杉百合之助
厄介
浪人
吉田寅次郎

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

天保十年

亥五月十四日揚屋入

三宅土佐守家来

渡邊登口上

亥四十六歳

同廿二日改揚屋ニ入

私儀如何之風聞入御耳候ニ召出揚屋ニ於是其後御目附横山之各改揚屋入ニ付以吟味坐

此段私義土佐守家来渡邊市之御悴ニ而八年之節より主人嫡子亀吉側御勤市兵衛病

死後ニ而付跡相続ニ付側向御勤其後追之轉役後八ヶ年以前辰年ニ年前末席ニ

付御勤居ニ異國船渡来之節海岸心得方之儀ニ付前之御書付并文政八酉年ニ

合出ニ就ても有之主人領分三州田原之儀ハ遠州大洋ニ出張無場所ニ付私義海

岸然ニ付於此地右用向御心得居ニ有之付異國船渡来之節ニ御法之儀無之

極者之心配故西洋要國之事情教政軍事等之儀心得居ニ度以前書右相平内近

所横寺方青山儀兵衛地借町醫長英図部内膳正横醫師小関三英水戸様以来

幡諸郡等右蘭ニ名高者ニ付知ル人ニ於成長英ハ之人吹笑年後ニ出力扶持ヲ贈追々
蘭學翻譯ヲ新新讀ニ唐理義難解義ハ右三人ニ第合蛮國ニ風俗ニ于ニ一通ニ
右中ニ名ヲ於ニ其ニ得ル一體私義ハ幼年ニ於文武藝術ヲ勵右館藏画ヲ學
華山ト号シ慰ニ徳和等ニ於其ニ不計世間名ヲ知ル様ヲ成當時門人等ヲ多人数有ニ
外ニ認和新多殊ニ於此處其上目務ニ身分主人家政向等厳務等ニ而寸暇無ニ
以ニ蘭學ニ後ハ見識深ク未自己ニ可當ニ以解説等ニ於萬ニ然ル所ニ去年
六月阿蘭陀甲比丹円ニ下ニ大イキリス人モリソント云者日本深海ニ者七人ヲ自國
ニ於ニ無ニ江戸近邊ニ交易ヲ於新願ト心組ニ於アレ下ニ合ニ風雪等ニ一主人領分海
岸等ニ先船等ニ於ニ義ニ其ニ其節豫心得無ニ其ニ為ハ新ニ其ニ且右モリソン志ニ
其有名ニ者ニ唐土廣東ニ於ニ数千年ニ為学ニ於著書ニ内五車韻府其外通鑑
綱目東華録西域碑文未巻ニ周易ニ鈔録等ニ有ニ五車韻府ハ通雅ニ為メ

俗語ニ解説ニ為ニ皆横文ヲ以傍註ニ於シ有ニ右出板ニ年ヲ以来ニ於ニ考ニ得ハ五十年ニ於後ニ
者ニ於ニ其人ニ於ニ英逸ニ為ニ位ニ高威権ニ盛ニ為ニ於ニ為ニ阿蘭陀人ニ於ニ由承及
其ニ不ニ右モリソン漂流人ヲ送来ニ於ニ深ニ於ニ有ニ者ニ於ニ考ニ得ハ右モリ
ソン大漢学ニ也ニ於ニ以漂流民ヲ送ニ託ニ彼国ニ為ニ情訴ニ交易ヲ於新ニ後ニ一
有ニ変ニ右ニ於ニ朝ニ於ニ官ニ於ニ法人ニ通ニ於ニ稱ニ仰付ニ為ハ此ニ恵ニ以ニ為ニ之ニ於ニ
尚蛮国ニ右ニ於ニ結ニ為ハ国家ニ以ニ為ニ也ニ於ニ於ニ為ニ知ニ恵ニ以ニ於ニ為ニ之ニ報ニ為ニ西
書綴リ見ニ一ニ先ニ等ニ請答ニ請ニ作ニ定ニ為ニ於ニ徳ニ於ニ報ハ

一 西洋事情ニ義ニ等ニ学ニ其ニ於ニ事ニ為ニ於ニ恵ニ歸ニ付ニ丈ニ下ニ出ニ
ニ為ニ一ニ於ニ於ニ徳ニ中ニ悉ニ蛮ニ語ニ乱ニ為ニ記ニ教政学校ニ盛ニ為ニ日本唐土ニ不及ニ
ニ於ニ書顕ニ且日本海道諸島洋人ニ領ニ於ニ其ニハナシ唯其ニ国ヲ不失モノハ西尓細亜我
邦ニ已ニ以ニ其ニ有ニ出ニ得ハ誅ニ仏ニ有ニ以ニ其ニ於ニ不知ハ井蛙ニ高ニ心ニ於ニ居ニ之

記ニ或ハ右時変ニ随ヒ改革シテ候ハ古今ノ通儀ニテ殊ニ天地ノ変ハ不止太古之世日
本僅ニ大八洲ニ限リ奥羽ハ未開ノ所有之地方ヲ熊襲新羅征伐シテ後ニ至リ后自ラ新羅ヲ
征シ其後越之津軽ノ地陸奥地次第ニ開闢終ニ後世松前蝦夷ニ及ヒ皆大抵無事ニ生シテ憂
勤之所及職力共ニ取リ候ニ大陸之征戦ニ出来候中其所ヲ種ノ邪教ニ拠リ規模狭小ナルヲ
成只一国ヲ治ニ急ナル所候ニ海外ニ備ヲ請シタルカ古ヨリ後ニ変ナク候ハ若
ト云ニ昔一室ヲ治ニハ志僅ニ鐘釜妻妾ニ有之偶ニ大盗到レハ門ヲ固ニ墻ヲ高ニ内
妻妾之橋大壁共ニ至ル門墻ハ不残共一村焼失候テ後ニ延焼ニ及ヒ家調
荘子ニ見タトヘノ如ニ候

一 ニイマントア近来米利堅比丹諸ニテハイギリス海防之厳ナル事世界中ニ而歎ヲ
一時ニ至リ候ヘトモ迚モ尽シ候ニ不能而様子候之候トモ兵備蘭ヘ渡シ備ヘ候ニもとテ
スニ至候

一 ニイマンノ返答ヲルノト申蘭人ニテハイギリス日本地方ニ島ヲ取ル日年ハ
不可成トいつまても火術練達ならせし防ハ出来可申し今二百年ニ至
りし火術ニ功者なる者ヲ撰し五六年も蘭船ニ教示申有之可申

一 西洋諸国之事ハ記し有之候何しも名を正スル事ヲ始ト致しホナバル厄入
亡ぬヲ汚し時ニも得ルを是ニ候海岸ヲ防と一事ニ不義ニ至るを数件之候
云ハ心得可有之

右之所数条ハ漢文ニ訳ス推と録ハ洋人ハ實ニ大歌とても餘有之候
為何哉生ハ其德改ト其規模之廣大トシテ不行也トお心得候未ニ意ニ無之
是ヲ別ニ議論ヲ記シ慎機論ト題号致し積りニ右箇条ニもモリソン文学ニ候
諸国人漂流人ヲ送り江戸近海ニ到り其儀并其国戦争之儀ヲ記ニカヽル
顕名之士首トシテ護送セんとナレハ東国ハ命ヲ飲ニ来ル事疑フヘカラス

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3
ガラス使用

殊ニモリソン唐山ノ學ヲ為シ亞西亞ノ人情ヲ解スル者ナレハ極メテ其人ヲ撰
タル者ニ心意アルガゴトシ抑我邦ハ外交ニ嚴ナル海外諸國ノ熟知スル所其證ハ
諸地者又鄂羅斯タルウンセンノ記コロヰンノ記トニ審ナリ然ル漂人ヲ憑的トシテ
交易ヲ乞事行レザル者因リテ解シテ成ルナレハサイフ舊轍ヲ不踏ヲ必定ナル
ヘシ然ニ朝議鄂羅斯使節之例之如ク彼国一箇ノ為ヲ以テ國制ヲ變
遠ニ威ヲ墜シ不事生ル恐ルヘカラサル大道ナルヘシ然リトイヘトモ西洋諸國
ノ道トスル所モ我所道理ニ於テハ有一テ無二ト雖モ其見ノ大小ノ分ナキニアラス
是能寓波者ニアラサレハ盲瞽ノ象ノ如ク一尾一脚モ象即象也尾ヲ
捉象ヲ説カハ無鼻長牙又何ニアルヤト認其外今ノ天下五大洲亜墨利加亜弗
利加亜烏斯答羅利三洲ニハ已ニ歐羅巴諸國ノ有ト成亜尓亜一洲ト雖僅我
邦唐山西尓亜ノ三國而已其三国ノ中西人通信セサル者唯我邦存

恐多キ事ナレハ實ニ杞憂ニ不堪論スヘキハ西人ヨリ一視セハ我邦ハ途上遺肉ノ如
ク餓虎渇狼ノ不顧ヲ得ニヤ英吉利亜交販ノ行ハレサルハ當國ノ永世ノ禁固リ
侵スヘカラサレトモ我国ヲ始海外諸国航海ノ者或ハ漂泊シ或ハ薪水ヲ欠キ或
ハ疾病アルモノ地方ヲ求急ヲ救ハントセシニ貴國海岸嚴備ヘシテ航海ニ害
アル事一国ノ故ヲ以地球諸国ノ害アランニハ同教天地ニ戴踏シ救ヲ害ス
豈是ヲ人ト謂ハンヤ貴國ニ於テ能此大道ヲ會シ我天下ニ於テ望ム所ノ報ヲ聞
ントニ申セシ時彼カ従来一ノ疑ヘル實ヲ挙テ通信スヘカラサル故ヲ論サンヨリ
外アルヘカラスカレ瑣屑之論ニ落チ窮ル所彼カ貪婪ノ名目生スヘシ抔ト記シ
又モ英吉利斯ノ我ニ要ム所蠅ノ羶ヲ逐フ必拂ハ又来ルヘシ嗚呼天下ノ理勢
乗除相成物極則變盛極則衰古教盛隆之地皆北狄之為ニ并セラレサル
モノカト認或西洋諸国ノ地ヲ考ニ大抵北極七十度ニ起リ四十五度ニ終ル其

間五十五度以下ラ多シトス是ラ我ニ比スレハ奥蝦夷以北之地ニシテ人多キニ非ス
土地廣キニ非ス耕モ食ニ足ラス織モ不ル衣肉ラ食ヒ皮ラ被リ労苦ニ習ヒ
死ラ畏レス後来開化北移シ終ニハ英建之君尚出テ今盛隆ニ及ヘリ然則土
地之豊福モ不可頼人之衆多モ不可喜其惟恭憂ニアル乎允政ハ擾化所ニ立福
ハ所為ニ生ス今國家所擾者海所安者外患一旦忖ヘキモノ不可忖不可
安ニテ徒ニ三代徭役之制秦漢鑿戎之論ラ以今ヲ論ル者亦謬柱鼓琴ノ如リ
何トナレハ唐山ノ地タル重山複峯南北ラ界漠然タル砂漠其西ラ圍ミ大遥推
挙シ轟来ルト雖一邊之地ニシテ豈ニ加フルニ世豈苟忽ニセサルノ地ニシテ比四守戰
逸ラ以労ラ待充防キ易モノアリ且其徒モ亦剽奸驕横ノミシテ唯(其)利ハ北塞ニ
居リ動辺ヒ易キ耳今我邦四周渺然天下擾不之界ニシテ世ニ不備之衆其
来モ亦一ニ限ルコト不能一旦事アル時全國カラ以ストイヘ氏鞭ノ短ラシテ
馬腹ニ及ハザルラ恐ルヽ也況西海鑓曜ヒ辺四方ラ朋ニシテ為国ラ結世ヒ擾乱ノ騰
辺海舩技ニ長スルラ以我短ニアタリ海運ラ妨ケ不備ラ劫カサハ逸ラ以労ラ攻ル事及
戻ニテ手ラ措所ナカルベシ惟啓唐山浸淫漸ニ風轉傳ニテ高明空虚ノ学盛ニナルヨリ
終ニ其光明部障自井蛙管見ニ浴ラ不知也況ヤ明末興雅風流ラ尚ヒ兵戈日警ニ尚モ
酣歌鼓舞ニシテ士氣ハ偏薄ニ陥ル如シ今夫在上大臣責ヲ欲シ固納袴子弟要路権臣
ラ責ト欲スルトモ賄賂俾臣是唯有心者ハ儒臣之設ケ望淺ラシテ大ラ措ハラ取リ一不痛不
癢之世界トナル今夫如此束手ヲテ寇ラ待ニカト認右之通議論ラ立末ニ海防心得
ノ方ラ記シ免積ニテ未タ稿ラ終リ不申ト不禁忌シ犯シ免語免ラ免ラ自咎乃儀ニ有ラ且駅舌或問ラ義ハ
心得其保ラ量シ止メ他見ラ禁ハラ均仕舞置ノ儀ニ有ラ且駅舌或問ラ義ハ
七年以前ニ長英等ハ関ニ英憐崎ニ暴ニ追々帰国免モノ共蘭書ラ引當訂
改来國ラ知ラ人有ラ賢不国ラ廣狭人ラ論ラ因ラ改ラ誠免ラ望ム

申長田ニ佐写ヲ書載セ同小記ハ去年余向ニ甲比丹ニイマン説話ニ頼青山因
幡守様ヲ求メ醫師湊長安其外傳写ニ承リ其儀ニハ時ニ書物致置或問
附録ニ心得ニテ著述致ト儀ニテ吾も書中ニ頼ハニイマン義ハ老中様方ヲ以差
年ヲ分様方廻勅其義并法律ハ座敷向西丸炎上ニ前ニ此ト頼ハ綴リ序文も草稿
致シ未清書もふ行届下書ニ候不持致候其事

一 私儀近来工佐守隠居ハ蘭学ヲ勸メ好ラヲ之徒を集蘭書ヲ講シ蘭学ヲ以
世ニ被知其幡崎昇高州長英も深く交リ蘭科ニ醫師ヲ始其徒ヲ集メ
要国ニ事情ヲ穿鑿致出今ハ政事ヲ批判致ト由入ハ能シ不二主人土佐守
隠居ニハ無之厄介ニ大弁文鋼荒ヲ勸ヲ昇長英ト懇意ニ致シ候ニ
其途無之私儀ハ未蘭学未熟ニ儀ニ付講説写ハ其事ニ長英并三英
昇写ヲ扣翻訳写ハ其事又ニ理義兼合写仕ニ儀ハ一体好事ヲ生質ニ付

同交ニ者多く画ニ門人勿論文雅ニ携ハ者ハ知人多ハ自ラ出入多く要国
ニ事情ヲ穿鑿致シ義口外致ト覚毛頭無之事ハ其事ニ
ニハ出来ヲ向ニ儀ヲモ論シ為ニシ義ニ付右ヲ以ヲ得ル事ハ一ヲ論方も年ハ
一 浦賀洋中ニ諸国ニ廻船ヲ邪魔致ト得ニ一時江戸困窮ニ未成自ラ交
易ニ道も開ケ一ヲ拝其外ニ容易ヲ常ニ雑談同様ニ敬シ其内ニ事
右ニ古来ニ人ニ事ニ而古人筆記写ニも見ル度ニ儀も其ニ再列ニ出ニ
ト得其私ハ雑談致シ儀無之ニ吟味ニ上ニ小人頭柳田勝太郎組ニ小人ハ細戸
同書花井庵一儀右ニ私ハ第一長一旦ヲ上シ得其右ニ全覚違ニ今
申上ニ由年来ニ其

一 奥州金華山洋中離島ニハ異人船繋其事ニ遣ニ漁夫金子生ハ得ハ自ニ
通信ニ未来ニ自同好ニ者ニ未出ニ不右ハ当四月下旬ニ覚花井庵一長戦

右咄私ハアツハ儀有之ハ因ニ漸ク長沢ニ遠ク無之ニ乱者ハ席一儀深川佐賀町雪七
店秀三郎を同道致金蒲山ニ無度ハ留委数根子咄聞呉ニ様ニ留右様之儀ニ
咄ハ儀ハ無之ニ当ニ若ニ無ニ乱不可修味之上花井虎一儀者咄ハ私ハ以前事情設
大塚政太夫兄大塚庵ニ於咄ハ去同人ニ以実合ニ得ハ不庸義私ハ兼ニ
懇意ニ得其右体之咄 私ハ第一儀勿論席一ニ於咄ハ儀無之ニ当アレトト
儀ニ当者金蒲山洋中之儀莫ニ咄及第ハ義ハ者之ニ得其ニ不能為雑説者
私ハ第一儀ハ覚無之ニ

一 私儀無人島ニハ異国人船繋ニ就ニ第一仕者ニ付兼ニ渡海應接致度心底
之事ニ去年中ニ代友羽倉外記横伊豆七島をハ巡見之節無人島ニも
ハ渡海ニ来度之ニ従ハ願者之ニ付ハ同船一ニ致ハ組ニ当主人土佐守ニ就之
ハ儀も者之来子(本ノマヽ)年外記横ハ手附ハ手代無人島ニ渡海致ト積リニ付

千節ハ同船致シ漂流ニ託シ呂宋サントウイク。アメリカ国邊民戦其心組ニ当民其ニ
此節無量寺順宣始渡海之連中ニハ不加民其下由ニ等ハ居ニ以者外記横ハ
願者之ハ渡及第居ト砌ニ此主人家政第之義ニ付同役其ト矛楯致シ儀之
退役之儀ニ就ハ得其ニ留ニ不来ニ付迚も望ニ渡ニハ来ニ来ニ事ニ付ハ其外記横
ハ巡島之節ハ所係アル無人島ニ渡海致度其節主人在国中ニ付同役其迚先出ト
事ニ年寄ニ兼ハ身分ニ当者ニ者ニ就事ニ先出ハ心得速ニ一者之ニ当ニ者
戻シニ来ニ者之ニ過ニ就之ニ被望ニ届ニ不来ニ儀ニ付手附ニ代申ニ就ハ節同船
之儀固ニ之ニ付ニ無之ニ漂流ニ託シ異国ニ之ニ就ハ存ニ不可儀右躰之心組毛
頭ニ無之ニ

一 シロシヤ イキリスノ船印旗印花板不持民其儀ハ得之ニ居ト不右ニ渡海岸
之者其心得ニも未成且唐船新鮮船等船形見紛ニ致ニ得其ニ又心得ニ者ニ

申ハ而ハ此何ニ付右船ニ総国茶書船印旗印者板行致し主人領分海岸村ニ配
り主ア度存附十年程以茶と覚ヘ中川忠五郎様ハ其定ニ所味設ハ勤役ニ茶
ハ宅所出ハ達ニ候者右板行ニ候主人ニ而老中様ニ者同ニ方ニも一ツ有ニ哉
と私心得を以者同ニ宿舎板ニ被ニ主ニ人領分ハ浦ニ至て中ニ苦かん乃愛ニ仰
写ハ付板行ア付沙汰も有ニ之ハ得ニ忠五郎様者同ニ浦ニ分ア写ト者繪図相立
海岸村ニ而ニ可ニ去ニ年と覚ハ其定ハ所味設海岸ハ越ニ川路三左衛門様
ハ宅ハ所出ハ達ニ候者井川忠五郎様ハ勤役井者同シロニヤイキリス船下
旗印板行ア付主者不出来相立ニ而ニ主ニ アル上者繪図武校先上下義ニ而
者ニ通海岸ハ載ニ者同又ハ以前ニ至ニ而ニ苦儀者ニ而ニ下候ニ而
一去ニ酉年二月井大塩平八郎徒黨者企て一件ニ御も私ハ平八郎ハ度ニ
文通も有ニ者有騒立以前事實ニ而ニ者ニ而ニ苦儀罰然ニ書ニ而ニ

被ニ者ニ候ニ分風写ニ報ニ以ハ寄有ニ者不平八郎名前ハ覚ニ及弟所在ニ而
面会ニ候ハ候ハ勿論文通ニ有ニ者ニ候ニ者ニ去年夫ニ而ニ者ニ覚ニ所末孫
助儀ニ而ニ其ニ而ニ平八郎文通ニ者ニ候ハ一ツ有ニ候ト不報意ハ聴ニ者ニ覚ニ
ハ者アラカナル文体ニ者ニ候ニ借請ニ而ニ者ニ不ニ返ニ呉ニ様保保ア載ニ者状
第ニ入ニ返ニ候ニ私初メハ呼出ニ所味ニ成ハ組ニ而ニ者ニ私宅ニ有ニ去
物報ハ最上ヶ事不ニ分ニ者ニ本通ニ而ニ穿鑿ニ有ニ之ニ由及弟ニ者ニ文通
不ニ者ニ義ニ宜候ニ者火井ニ候ニ義ニ由且私方ニ者花井虎一儀一件ニ候ト
不ニ上名ニ者ハ不ニ分平易ニ文体ニ候ニ而ニ者ニ者ニ者ニ者ニ
平八郎ハ知ル人ニも無ニ文通ニ有ニ者ニ候ニ無ニ者ニ者ニ
務ニ以ニ茶事實ニ無ニ候ニ者ニ候ハ毛頭覚無ニ者ニ
一交代ハ宮合福原内匠様ハ東来高藤次郎ニ而ニ知ル人ニ者ニ候ハ去年

書ハ之ヲ英吉利語ニ訳シ本ヲ著ハシ家ヲ大ニ為シ記述頗ル精シク在英井虎一ハ好ンテ之ヲ学ヒ余ヲ訪ヒ来リ政治ヲ談ジ学ヲ講ジ其ノ後ハ仕方ヲ教ヘ或ハ地理ヲ指シ或ハ経書ヲ講ジ毎日ノ如ク来リ会スル事凡ソ四年ニシテ帰国セリ其ノ後私宅ニ在リシ年久シキ頃ヨリ折々来訪シ或ハ書ヲ寄セ或ハ人ヲ以テ通信シ或ハ自ラ来リ或ハ人ヲ遣ハシ其ノ交リ殆ンド断ユル事ナシ其ノ後ハ私モ亦家ヲ井原ニ移シ其ノ後ハ又ハ東京ニ住シ其ノ間ニ在リテモ常ニ往来シ或ハ手紙ヲ以テ或ハ人ヲ以テ互ニ消息ヲ通ジ其ノ交リ殆ンド断ユル事ナシ其ノ後ハ私モ亦家ヲ井原ニ移シ其ノ後ハ又ハ東京ニ住シ其ノ間ニ在リテモ常ニ往来シ或ハ手紙ヲ以テ或ハ人ヲ以テ互ニ消息ヲ通ジ

後ヲ追テ啓ス可キ事アリ又ハ虎一ノ後ヲ追テ来ル可キ事アリ又ハ虎一ノ帰ル可キ事アリ

一 夢物語ノ後ヲ承ハル長英著述ニ有ル由ニテ其ノ書ヲ借ラント欲スルコトヲ述ベラレ候ヘ共其ノ書ハ既ニ他ニ貸シ遣シ候ヘバ其ノ儘ニ致シ置キ候

一 アールトレイキスシールランブクトヤヲ蒲書ブウランフゾシント申蘭人ノ著述ニシテ地理ヲ記シ其書ノ第八冊ニ英世話ヲ以テ英ノ属国ヲ解説シ第十巻ニイキリス人殺割ノ惨ヲ挙ケ其ノ中ニ長英不評ノ事ヲ作リ候ヘバ其ノ書中ニ甚ダ不穏ノ事柄有之候ヘバ其ノ書ヲ以テ人殺割ノ事ヲ書中ニ甚ダ不穏ノ事柄有之候ヘバ其ノ書ヲ以テ人殺割

一 其人高洲ノ後加茂ニ住シ年久シク同志ノ人ニモ面会シ功ヲ成シ名ヲ遂ケ今ハ老ヒテ病ヲ養ヒ居ル由ニテ其ノ子ヲ以テ私ニ託シ来リ候ニ付キ其ノ子ヲ以テ一度面会致シ候ヘバ遠山半太郎ノ称呼ヲ以テ私ノ住家ヲ尋ネ又本岐道ヲ始メ細

エ夫ノ苦ヲ窺ヒ意ヲ注ヒ七八年ノ苦ヲ嘗メ終ニ百一ノ工ヲ止ムルニ至ル其ノ後ノ人ヲシテ其ノ役ヲ知ラシムル事ヲ欲シ人書画舎ヲ作リ之ヲ石ニ刻シ三町目共組若干ノ人ヲシテ常ニ之ヲ守ラシム

今ノ常州庫面郡舎栖村一向宗無量寿寺順宣同人伴順道水ヲ探ル領ヲ常ニ那珂郡陵村住吉小迫人列郷士大内西父四郎吉大内清ヲ一向知ル人ヲシテ其ノ役ヲ知ラシムル事ヲ欲シ人書画舎ヲ作リ之ヲ石ニ刻シ三町目共組若干ノ人ヲシテ常ニ之ヲ守ラシム

苟書ヲ読ム井虎一ノ其ノ為ンヲ又ハ為ニスル風ヲ一ニシテ力行究ヲ私室ニ設ケ鼓ヲ或ハ倚機論其外ノ有ル者ヲ其ノ後ノ門ニ掲ケ理義ヲ明ラカニスル事ヲ務メ終ニ為ニ国ヲ治ムル者ヲ成ス

ヲ為ス小関三英ハ自殺ス順道ハ病死ス両藤次郎ハ先ツ病死シ両為ハ再ビ出テ仕ヘ其ノ後ノ事ヲ知ラス小関ハ幼ヨリ学ヲ好ミ長ジテ医ヲ業トス其ノ学ヲ修ムルヤ先ツ其ノ師ヲ択ヒ其ノ師ヲ択ブヤ必ス誰ヲ問ヒ何ヲ学ヒ何ヲ読ムヲ問ヒ其ノ人ヲ得テ之ヲ師トス故ニ其ノ学ブヤ其ノ要ヲ得テ其ノ業ヲ成ス

ヲ為ス小関三英ハ自殺ス順道ハ病死ス両藤次郎ハ先ツ病死シ両為ハ再ビ出テ仕ヘ其ノ後ノ事ヲ知ラス小関ハ幼ヨリ学ヲ好ミ長ジテ医ヲ業トス其ノ学ヲ修ムルヤ先ツ其ノ師ヲ択ヒ其ノ師ヲ択ブヤ必ス誰ヲ問ヒ何ヲ学ヒ何ヲ読ムヲ問ヒ其ノ人ヲ得テ之ヲ師トス故ニ其ノ学ブヤ其ノ要ヲ得テ其ノ業ヲ成ス

ヲ為ス小関三英ハ自殺ス順道ハ病死ス両藤次郎ハ先ツ病死シ両為ハ再ビ出テ仕ヘ其ノ後ノ事ヲ知ラス小関ハ幼ヨリ学ヲ好ミ長ジテ医ヲ業トス其ノ学ヲ修ムルヤ先ツ其ノ師ヲ択ヒ其ノ師ヲ択ブヤ必ス誰ヲ問ヒ何ヲ学ヒ何ヲ読ムヲ問ヒ其ノ人ヲ得テ之ヲ師トス故ニ其ノ学ブヤ其ノ要ヲ得テ其ノ業ヲ成ス

ヲ為ス小関三英ハ自殺ス順道ハ病死ス両藤次郎ハ先ツ病死シ両為ハ再ビ出テ仕ヘ其ノ後ノ事ヲ知ラス小関ハ幼ヨリ学ヲ好ミ長ジテ医ヲ業トス其ノ学ヲ修ムルヤ先ツ其ノ師ヲ択ヒ其ノ師ヲ択ブヤ必ス誰ヲ問ヒ何ヲ学ヒ何ヲ読ムヲ問ヒ其ノ人ヲ得テ之ヲ師トス故ニ其ノ学ブヤ其ノ要ヲ得テ其ノ業ヲ成ス

ヲ為ス小関三英ハ自殺ス順道ハ病死ス両藤次郎ハ先ツ病死シ両為ハ再ビ出テ仕ヘ其ノ後ノ事ヲ知ラス小関ハ幼ヨリ学ヲ好ミ長ジテ医ヲ業トス其ノ学ヲ修ムルヤ先ツ其ノ師ヲ択ヒ其ノ師ヲ択ブヤ必ス誰ヲ問ヒ何ヲ学ヒ何ヲ読ムヲ問ヒ其ノ人ヲ得テ之ヲ師トス故ニ其ノ学ブヤ其ノ要ヲ得テ其ノ業ヲ成ス

ヲ為ス小関三英ハ自殺ス順道ハ病死ス両藤次郎ハ先ツ病死シ両為ハ再ビ出テ仕ヘ其ノ後ノ事ヲ知ラス小関ハ幼ヨリ学ヲ好ミ長ジテ医ヲ業トス其ノ学ヲ修ムルヤ先ツ其ノ師ヲ択ヒ其ノ師ヲ択ブヤ必ス誰ヲ問ヒ何ヲ学ヒ何ヲ読ムヲ問ヒ其ノ人ヲ得テ之ヲ師トス故ニ其ノ学ブヤ其ノ要ヲ得テ其ノ業ヲ成ス

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

モリソント申者日本漂海之者を自國船へ乗ヤ近海へ送り来る甲比丹ハ内々
アルマカ之風雪ヲ冒ス右モリソンハ暫唐土留学致し学ヲモ有之高等官様室
使用し人物之有侍学之説ヲ事實と心得彼此ハ表ハ信義ヲ唱漂流ヲ送り
来る事近来と信出し通ヲ拂ヒ得ハ信ハ来恨結と不可然ハ存途
情機論并海外事情等ヲ請答之説ノ書面ヲ掇り右之内ニハ井蛙小鶴或ハ盲瞽
想像ノ譬ヲ取り其外悪多事共ヲ未聞ヲ致す事ヲ批判致し彼是之海岸ヲ高
為くなるハ不可忘之儀有之其節国家之日為ニ無之儀ト一途ニ存過し
心底ヲ以自問自答之心得ニ有之通徳想ヲ有ふ計ハ容易之文勢ニ流し付
恐ハ儀ト未無未稿ヲ終ヲ下書之儀仕舞ニ至候見ヲ加し後ハ年之内ハ
之日有之者始末ヲ伴公儀ハ敬之ニ至候ニ重役五和し身分ヲ有之ニ而ハ明味請
世ヲ被望ニ入義

月

渡邊登

寅七月二十四日

就等事度ハ御座之此日上書ヘ御仕立未添上ル但ロ上書ハ明味方ニ有
御清書出来之事
御勢ノ御書花井虎一儀詰文去ハ致ス上ル所ニ付ニ
後其ニ付者之廣方調通し御仕立
四月廿一日
御同人ハ花井甚之丞ヲ以上ル

右華山款詞以上田藩恒川重遠本謄寫宜海防彙議所載慎機論諸

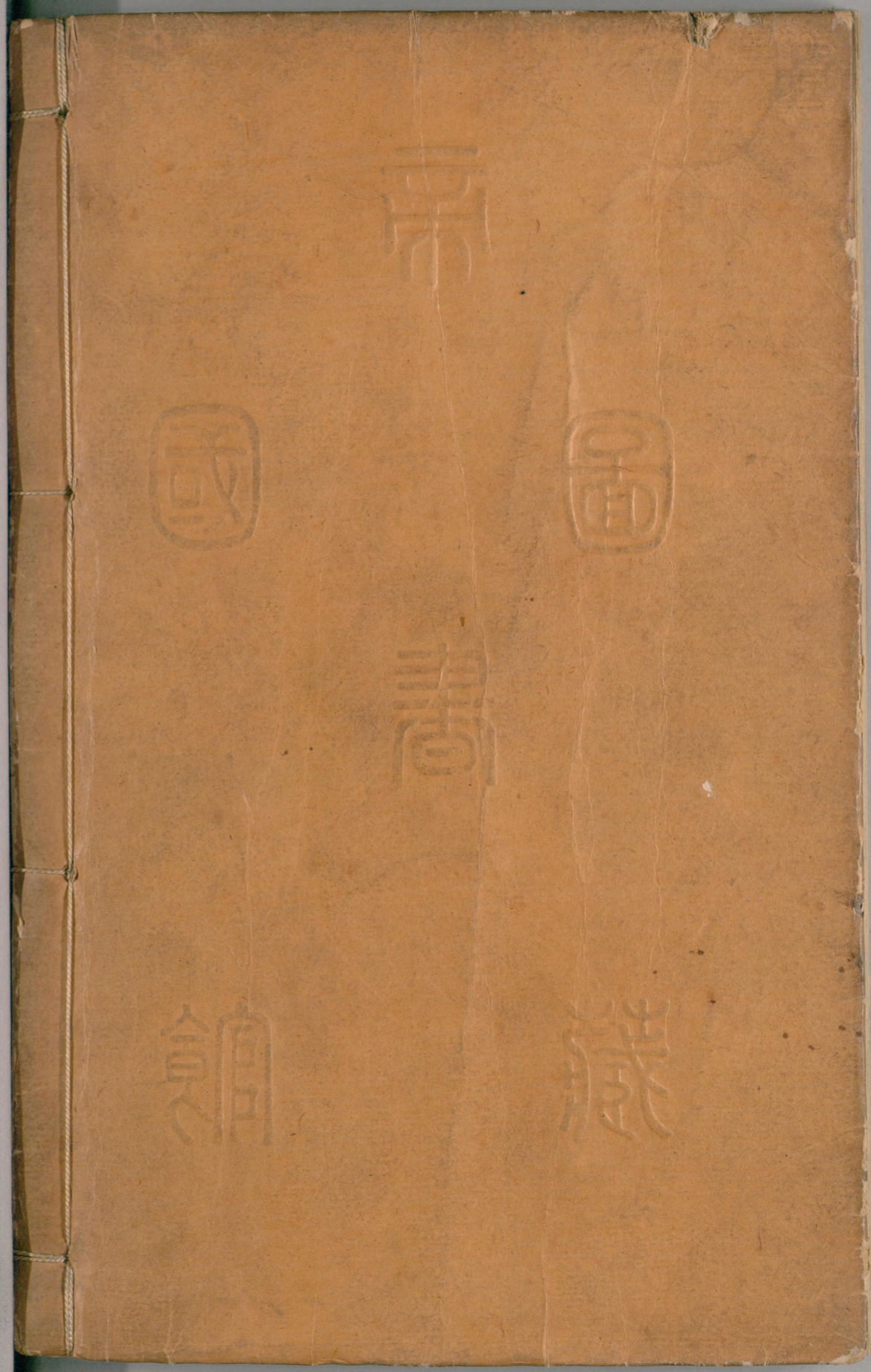
国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『堤蟻叢書』 請求記号 836-3

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『堤蟻叢書』　請求記号 836-3

ガラス使用